



No. 115

September 1996

# 甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS

## 日本産エンマムシ上科概説 III<sup>註1</sup>

—エンマムシ亜科 (エグリエンマムシ族, ヒラタエンマムシ族,  
ナガエンマムシ族)—

大原 昌 宏

### 1-3-5. エンマムシ亜科 Histerinae

エンマムシ亜科は4族: エグリエンマムシ族・ヒラタエンマムシ族・ナガエンマムシ族・マルエンマムシ族 (Omalodini)・エンマムシ族に分類され, 約1,600種が含まれる最大の亜科である。日本からは4族10属47種が知られる。触角窩が腹面から覆われる亜科のなかでは最も派生的。上唇の刺毛を欠くことで区別される (一部のアリヅカエンマムシ亜科も欠く)。族間のグルーピングは (Exosternini ((Omalodini, Platysomatini) Hololeptini) (Histerini))) のようになるであろう (一部は ÔHARA et NAKANE, 1989 に発表)。MAZUR (1990) は族までの検索を示しており (訳: 大原, 1993), グルーピングは同じような結論に達している。特にエグリエンマムシ族はきわめて祖先的な族で, 他亜科と詳細な比較をした後, ランキングを整理する必要があると思われる。

#### 族・属までの検索

- 1(6) 前脛節の跗節を受ける溝はS字状。  
2(3) 頭は, 体にたいして水平にしまわれる。……………ヒラタエンマムシ族  
……………ヒラタエンマムシ属  
3(2) 頭は, 体にたいして垂直にしまわれる。……………ナガエンマムシ族  
4(5) 体は長楕円形。……………ナガエンマムシ属  
5(4) 体は卵型。……………マルナガエンマムシ属  
6(1) 前脛節の跗節を受ける溝は直線状。  
7(10) 中胸腹板前縁は波状となり, その中央は前方へ多少なりとも突出する。…エグリエンマムシ族

- 8(9) 体は赤色。……………キノコアカマルエンマムシ属  
9(8) 体はブロンズ色。

- ……………チュウジョウチビエンマムシ属  
10(7) 中胸腹板前縁は中央が後方へ波状にへこむか, ほぼ裁断状。突出部位をもつことはない。

- ……………エンマムシ族  
11(18) 中胸腹板前縁は中央が後方へ波状にへこむ (ツヤマルエンマムシでは, ほぼ直線状。しかし前胸背側条は2本で, 鞘翅には短く深い外副肩条をもつことで区別できる)。

- 12(17) 鞘翅の外副肩条は不完全。

- 13(16) 前胸背の側条は2本。

- 14(15) 前胸背と鞘翅表面は普通で, 大きく深い点刻で覆われることはない。……………クロエンマムシ属

- 15(14) 前胸背と鞘翅は大きく深い点刻を全体にそなえる。

- ……………アラメエンマムシ属

- 16(13) 前胸背の側条は1本。

- ……………エンマムシ属

- 17(12) 鞘翅の外副肩条は完全。

- ……………ヒメエンマムシ属

- 18(11) 中胸腹板前縁はほぼ裁断状で, わずかに前方へ弓なりに突出する。……………ムナクボエンマムシ属

### 1-3-5-1 エグリエンマムシ族 Exosternini

世界に38属約400種。日本からは2属2種が知られるのみ。オーストラリア区を除く全世界に分布する。アフリカに分布の中心があり, きわめて多様な属に分けられている (大原, 1990)。一部の属は中南米において種レベルでよく分化し, *Phelister* 属では既知種だけで120種に達してい

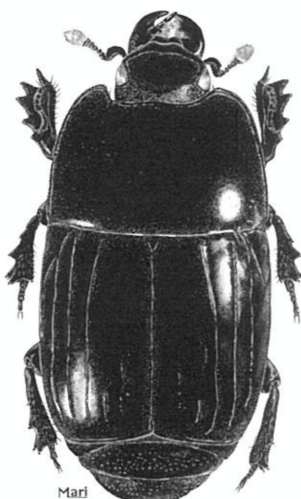


図1 インドナガエンマムシ  
*Platysoma (Platylistra)*  
*atratum* ERICHSON

<sup>註1</sup> M. ÔHARA, Taxonomic note on the superfamily Histeroidea of Japan, III.

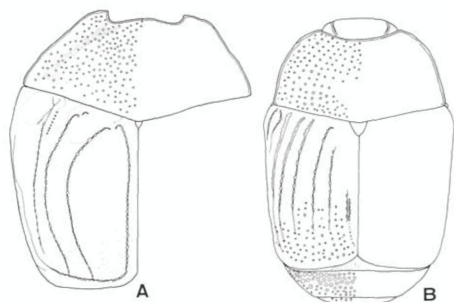


図2 A: キノコアカマルエンマムシ, 成虫, 前胸背と左鞘翅, B: チュウジョウチビエンマムシ, 同 (ÔHARA, & NAKANE, 1989 より).

る。東洋区からは11属が知られ, その一部2属が極東・日本まで分布を延ばしている。検索で示した「中胸腹板前縁中央の突出」形質状態のほかには共通の派生形質状態は見い出されず, 「単純な前脛節」などの共有な祖先形質状態であとめられたグループという気がする。日本にあまり分布しない分類群なので検討が難しいが, エンマムシ亜科周辺の系統関係を探る上で重要なグループである。

#### キノコアカマルエンマムシ属

#### *Notodoma* LACORDAIRE, 1854

世界に11種。日本からは1種が知られる。東南アジアから日本まで分布。菌類に集まる。

#### キノコアカマルエンマムシ (図2A)

#### *Notodoma fungorum* LEWIS, 1884

図説 N: 70; 図説 H: 226; ÔHARA & NAKANE, 1989: 28.

赤い体に鞘翅基部の黄色い紋をもつことで他種と区別できる。分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 伊豆諸島, 南西諸島(屋久島, 種子島, トカラ中ノ島), 台湾。

#### チュウジョウチビエンマムシ属

#### *Binhister* COOMAN, 1934

ベトナムの *barbarus* と日本の *chujoi* の2種からなる。

#### チュウジョウチビエンマムシ (図2B)

#### *Binhister chujoi* COOMAN, 1941

図説 N: 68; 図説 H: 226; ÔHARA & NAKANE, 1989: 290; 平野, 1995: 4 [北海道]。

暗いブロンズ色の体色で区別できる。カワラタケ類に生息。分布: 北海道, 本州。

#### 1-3-5-2 ヒラタエンマムシ族 *Hololeptini*

一般に扁平な体つきと大顎が前方へ向いていること(頭が体に水平に位置)で見分けられる。7属約140種を含む。このうち *Hololepta* 属が約120種を含み全世界に分布している。それ以外の属は中南米に限り分布している。日本からは1属3種が知られる。樹皮下に生息し, 樹液にもよく集まる。頭が体にたいして水平に位置するため, 古くは, 祖先的なグループとみなされ独立の亜科に扱われた。しか

し, 頭の位置については樹皮下生活にたいする二次的な適応と考えられ, 垂直な位置から再び水平に戻ったとみなされている(概説I: 甲虫ニュース, 113: 3 左段参照)。

#### ヒラタエンマムシ属

#### *Hololepta* PAYKULL, 1811

*Hololepta* と *Leionota* の2亜属に分類される。前者は約80種が知られ, 後者は40種ほどが新大陸から知られる。日本産については私が再記載をしている (ÔHARA, 1991a, b)。

1(4) 前尾節に筋はない。

2(3) 体長は大きく, 7.3-8.7 mm。前胸腹板ののど板前縁は前方外側へ弓状となる。

.....オオヒラタエンマムシ

3(2) 体長は小さく, 5.7-7.0 mm。前胸腹板ののど板前縁は外側へ突出せず内側へゆるやかに弓状にへこむ。.....ヒラタエンマムシ

4(1) 前尾節に筋をもつ。前胸腹板ののど板前縁は

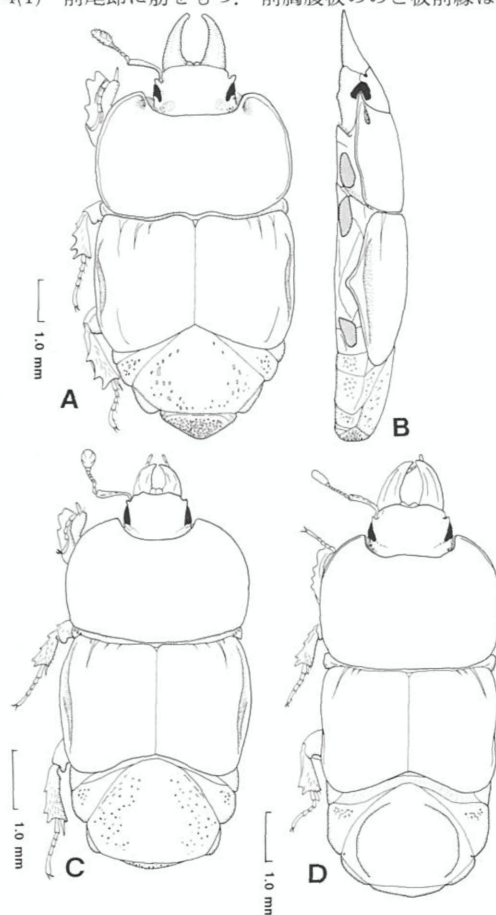


図3 ヒラタエンマムシ属。成虫背面図。A: オオヒラタエンマムシ, B: 同, 側面, C: ヒラタエンマムシ, D: ヒゴヒラタエンマムシ (ÔHARA, 1991a, b より)。



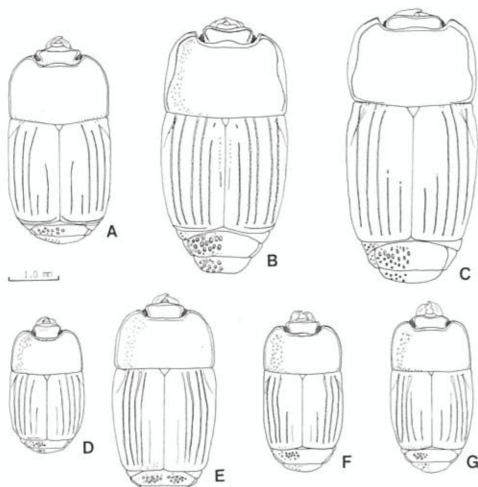


図4 ヒメナガエンマムシ亜属。成虫背面図。A: トカラナガエンマムシ, B: オオナガエンマムシ, C: ヘリナガエンマムシ, D: ヒメナガエンマムシ, E: キタナガエンマムシ, F: ニセヒメナガエンマムシ (本州産), G: ニセヒメナガエンマムシ (トカラ産) (ÔHARA, 1986 より)。

裁断状。……………ヒゴヒラタエンマムシ  
オオヒラタエンマムシ (図3AB)

**Hololepta amurensis** REITTER, 1879

図説 N: 69; 図説 H: 230; 林, 1985: pl. 12 [幼虫]; ÔHARA, 1991a: 103 [再記載]。

北海道ではハルニレの樹液などに普通。分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 伊豆諸島, 対馬, 屋久島, ロシア (東シベリア, 沿海州), 朝鮮半島, 台湾, 中国。

ヒラタエンマムシ (図3C)

**Hololepta depressa** LEWIS, 1884

図説 N: 69; 図説 H: 230; ÔHARA, 1991b: 235 [再記載]。

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 台湾。

ヒゴヒラタエンマムシ (図3D)

**Hololepta higoniae** LEWIS, 1894

図説 N: 69; 図説 H: 230; ÔHARA, 1991b: 238 [再記載]。

きわめて稀。分布: 本州, 九州, 台湾, ラオス, ベトナム, 中国 (雲南)。

**1-3-5-3 ナガエンマムシ族 Platysomatini**

世界から22属約380種, 日本からは2属が知られる。「頭が体に対し垂直にしまわれる; 前脛節の跗節を受ける溝がS字状; 体は通常ほぼ偏平で, 著しく凸状に厚みをもつことはない」の形質状態で他族から区別される。

ナガエンマムシ属

**Platysoma** LEACH, 1817

5亜属に分類される。日本からは4亜属16種が知られる。亜属の分類は不安定で明瞭な分類が行わ

れておらず, *Platysoma* complex と呼ばれることもある。多くの種は樹皮下に生息し, まれに花や腐肉に来るものも記録されている。樹皮下で林業害虫を捕食する益虫として注目される種もある。熱帯域に多く, 散発な記載がされたままでまとめられた論文がないため, 再検討が必要とされている。東南アジア産の *Platylister* 亜属については現在私が再検討を進めている。

**亜属までの検索**

- 1(2) 体は著しく扁平。基節間は中脛節の長さと同長。……………ヒラタナガエンマムシ亜属
- 2(1) 体は多少とも厚みがあり, 正中域で盛り上がる。基節間は狭く, 中脛節の長さの1/3ほど。
- 3(4) 体は細長く, その幅は鞘翅会合線の長さより狭い。……………ナガエンマムシ亜属
- 4(3) 体は楕円か長楕円で, その幅は鞘翅会合線の長さより広い。
- 5(6) 尾節の後縁は強く盛り上がる。

- ……………オニナガエンマムシ亜属
- 6(5) 尾節の後縁は盛り上がらない。

……………ヒメナガエンマムシ亜属  
**ヒメナガエンマムシ亜属**

**Platysoma** LEACH, 1817

図説 H: 229 [検索表]; ÔHARA, 1986: 91-106。

世界から約120種, 日本の8種については私が1986年に一応のまとめをしている。

- 1(4) 前胸背は平滑で無点刻 (せいぜい微細点刻がある程度)

- 2(3) 鞘翅表面の先端1/3は皺状。鞘翅第1-3背条は完全, 4条は基部1/3を欠き, 5条, 会合条は先端1/2にある。前尾節は両側に陥没をもつ。体長3.3-3.65 mm。……………ツシマナガエンマムシ

- 3(2) 鞘翅は皺状にならない。鞘翅第1-3背条は完全, 4条は先端にあり, 5条は基部1/3を欠き, 会合条はない。前尾節は陥没をもたない。体長3.05-3.8 mm。……………トカラナガエンマムシ

- 4(1) 前胸背は点刻され, 特に側部で密になる。

- 5(8) 体長4.2-5.3 mm。前胸腹板突起 (Prosternal

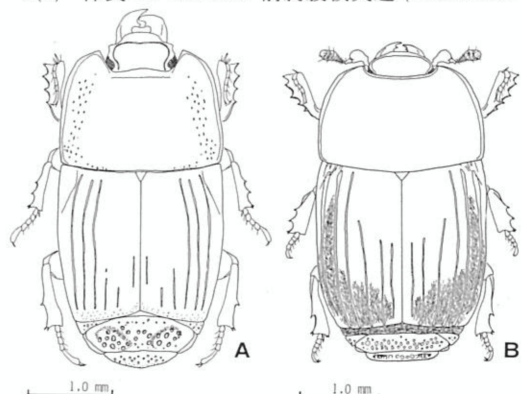


図5 成虫背面図。A: ナカネナガエンマムシ, B: ツシマナガエンマムシ (ÔHARA, 1986 より)。

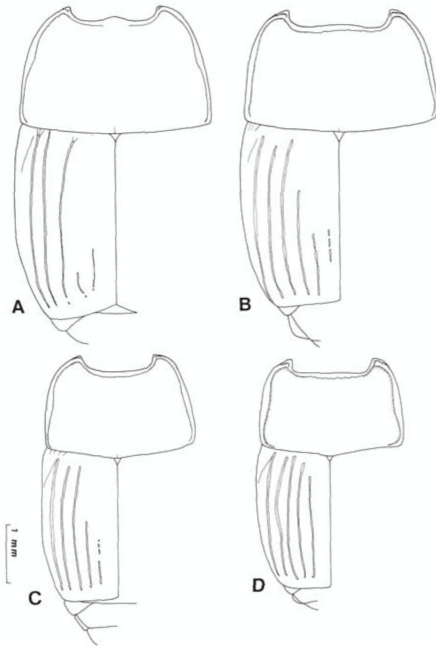


図6 オニナガエンマシ亜属, 成虫, 前胸背と左鞘翅. A: インドナガエンマシ, B: オニナガエンマシ, C: ホルンナガエンマシ, D: マツナガエンマシ. (ÔHARA, 1994 より).

process) は縁どられる。前胸背の側条は側縁から広く離れる。

6(7) 鞘翅会合線は基部 1/2 にあり, 粗い点刻から構成される; 第1-4 背条は完全で, 5 条の基部は痕跡を残しながら消失する。体長は 4.2-5.3 mm.

.....オオナガエンマシ  
7(6) 鞘翅会合線は欠く; 第1-3 背条は完全で, 4, 5 条は基部 1/2 にある。体長は約 5.0 mm.

.....ヘリナガエンマシ  
8(5) 体長 2.13-3.8 mm. 前胸腹板突起は縁どられない (Carinal stria をもたない)。前胸背の側条は側縁に近く沿って走る。

9(12) 鞘翅第1-4 背条は完全 (celatum は稀に基部側から短くなる)。

10(11) 前尾節の点刻は尾節と同程度に粗い。中脛節は外歯を欠くか, 弱い突起をもつ。前胸背側条は完全。体長 2.13-2.95 mm. ....ヒメナガエンマシ  
11(10) 前尾節の点刻は尾節よりも粗い。中脛節はつねに大きな1 外歯を先端から 2/3 にもつ。前胸背側条は目の後ろで短くとぎれる。体長 2.9-3.4 mm. ....キタナガエンマシ

12(9) 鞘翅第1-3 背条が完全。

13(14) 会合線は先端部にある。前胸背側条は目の後ろで短くとぎれる。 ....ナカネヒメナガエンマシ  
14(13) 会合線は欠く。前胸背側条は完全。

.....ニセヒメナガエンマシ  
ヒメナガエンマシ (図 4D)

*Platysoma (Platysoma) celatum* LEWIS, 1884

図説 N: 69; 図説 H: 228; ÔHARA, 1986: 99.

本属の日本産種では最も小型。

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州。

キタナガエンマシ (図 4E)

*Platysoma (Platysoma) deplanatum* (GYLLENHALL, 1808)

図説 H: 229; ÔHARA, 1986: 100.

分布: 北海道, ヨーロッパ, シベリア, モンゴル, 朝鮮半島。

オオナガエンマシ (図 4B)

*Platysoma (Platysoma) lewisi* MARSEUL, 1873

*Platysoma lewisii* [sic]: 図説 N: 69. ....*Platysoma lewisi*: 図説 H: 228; ÔHARA, 1986: 93.

本種とヘリナガエンマシは大型で, 両種は鞘翅条溝の違いなどで区別できる。

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬。

ニセヒメナガエンマシ (図 4FG)

*Platysoma (Platysoma) rasile* LEWIS, 1884

図説 H: 228; ÔHARA, 1986: 104.

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 南西諸島 (種子島, トカラ中ノ島, トカラ悪石島, 奄美大島)。

ナカネヒメナガエンマシ (図 5A)

*Platysoma (Platysoma) takehikoi* M. ÔHARA, 1986

ÔHARA, 1986: 102.

分布: 南西諸島 (竹富島, 石垣島, 西表島)。台湾。  
ツシマナガエンマシ (図 5B)

*Platysoma (Platysoma) tsushimae* M. ÔHARA, 1986

ÔHARA, 1986: 94.

鞘翅先端 1/3 に特異な皺状刻印をもつことで区

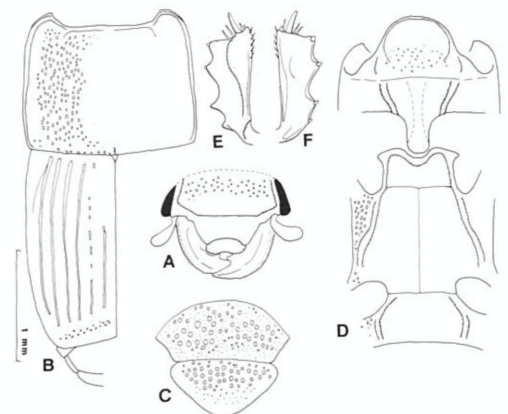


図7 ナガエンマシ, 成虫. A: 頭部背面, B: 前胸背と左鞘翅, C: 前尾節と尾節, D: 前胸・中胸・後胸腹板, E: 左前脛節背面, F: 同腹面 (ÔHARA, 1994 より)。



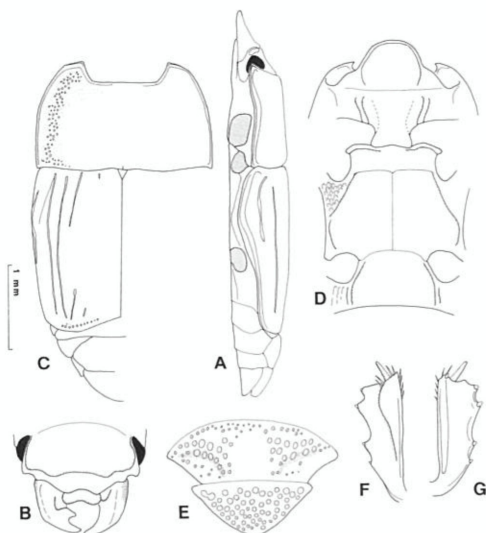


図8 ヒラタナガエンマムシ, 成虫。A: 側面, B: 頭部背面, C: 前胸背と左鞘翅, D: 前胸・中胸・後胸腹板, E: 前尾節と尾節, F: 左前脛節背面, G: 同腹面 (ÔHARA, 1994 より)。

別は容易。亜属の所属は再検討の必要がある。原記載以来記録なし。分布: 対馬。

ヘリナガエンマムシ (図4C)

*Platysoma (Platysoma) vagans* LEWIS, 1884

図説 H: 228; ÔHARA, 1986: 97.

北海道ではイタヤカエデなどの伐採木に飛来。分布: 北海道, 本州。

トカラナガエンマムシ (図4A)

*Platysoma (Platysoma) unicum* BICKHARDT, 1912

図説 N: 69; 図説 H: 228; ÔHARA, 1986: 96.

分布: 南西諸島 (トカラ中ノ島, 竹富島, 石垣島)。台湾。

オニナガエンマムシ亜属

*Platylister* LEWIS, 1892

世界に約70種。日本からは5種が知られる。「尾節の後縁が盛り上がる」形質状態で区別されるが、*Platysoma* 亜属と明瞭に区別できるか否かは疑わしい。将来交尾器などに基づいた亜属の再編が必要であろう。*P. oberthuri* は未検討。

1(4) 前頭は著しくへこむ。

2(3) 鞘翅第1-4背条は完全。小さく体長は4.00-4.75 mm。……………マツナガエンマムシ

3(2) 鞘翅第1-3背条は完全。大きく体長は4.50-6.06 mm。……………オニナガエンマムシ

4(1) 前頭はわずかにへこむ程度。

5(6) 鞘翅第4背条は5条よりも長い。

……………ホルンナガエンマムシ

6(5) 鞘翅第4背条は5条よりも短い。

……………インドナガエンマムシ

インドナガエンマムシ (図1, 6A)

*Platysoma (Platylister) atratum* ERICHSON, 1834

*Platylister atratus*: 図説 H: 229. ……*Platysoma (Platylister) atratum*: ÔHARA, 1994: 96.

分布: 伊豆諸島 (三宅島), 九州, 南西諸島 (屋久島, トカラ中ノ島, 奄美大島, 徳之島, 沖縄本島, 竹富島)。台湾。

オニナガエンマムシ (図6B)

*Platysoma (Platylister) cambodjense* MARSEUL, 1864

*Platylister niponensis*: 図説 N: 69; 図説 H: 229. ……*Platysoma (Platylister) cambodjense*: ÔHARA, 1994: 99.

分布: 九州, 南西諸島 (屋久島, トカラ中ノ島, 奄美大島, 沖縄本島)。台湾。ベトナム, ラオス, カンボジア, ミャンマー, タイ, ブータン, 北インド, ホルンナガエンマムシ (図6C)

*Platysoma (Platylister) horni* BICKHARDT, 1913

*Platylister horni*: 図説 H: 229. ……*Platysoma (Platylister) horni*: ÔHARA, 1994: 101.

分布: 南西諸島 (石垣島)。台湾。

マツナガエンマムシ (図6D)

*Platysoma (Platylister) pini* LEWIS, 1884

*Platylister pini*: 図説 N: 70; 図説 H: 229. ……*Platysoma (Platylister) pini*: ÔHARA, 1994: 103.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 台湾。

ナガエンマムシ亜属

*Cylister* COOMAN, 1941

世界に23種。日本からは1種が知られる。体は細長く筒状に近くなることで区別できる。マツの樹皮下に多い。

ナガエンマムシ (図7)

*Platysoma (Cylister) lineicollis* MARSEUL, 1873

*Cylister lineicollis*: 図説 N: 69. ……*Cylister lineicollis*: 図説 H: 229. ……*Platysoma (Cylister) lineicollis*: ÔHARA, 1986: 105 [再記載]。

分布: 本州, 四国, 九州, 佐渡, 対馬, 台湾。

*Platysoma (Cylister) elongatum* (THUNBERG, 1787)

移入種。楠井 (1984) は新潟県上越直越港に荷揚げされたカラマツ材から採集された個体を記録した。分布: ヨーロッパ, シベリア, モンゴル, アムール。

ヒラタナガエンマムシ亜属

*Apobletes* MARSEUL, 1860

世界に40種。日本に1種が知られる。著しく扁平な体をしているため区別は容易。しかし、海外のものは *Liopygus* や *Baconia* といった一見似ているものがあるので注意しなければならない。

ヒラタナガエンマムシ (図8)

*Platysoma (Apobletes) shaumei* (MARSEUL, 1860)

*Apobletes tener*: 図説 H: 229. ……*Platysoma (Apobletes) shaumei*: ÔHARA, 1994: 109.

分布: 南西諸島 (沖縄本島)。東洋区全域。

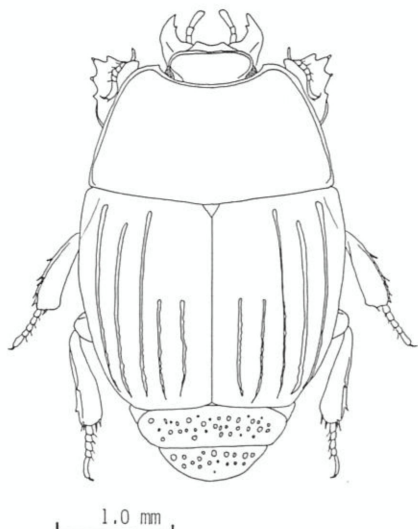


図9 サツマナガエンmamushi, 成虫背面図(ÔHARA, 1986より).

#### マルナガエンmamushi属

##### *Eblisia* LEWIS, 1889

世界に30種, 日本に1種. 樹皮下や朽木内に生息する. *Platysoma* 属に近縁で, 多くの種はその一員であったが, MAZUR (1990) により整理され属が移された. 体が卵型なので他の *Platysomatini* のメンバーと区別しやすい.

##### サツマナガエンmamushi (図9)

##### *Eblisia satsumae* (LEWIS, 1899)

*Platysoma satsumae*: 図説 H: 229; ÔHARA, 1986: 94. ……*Eblisia satsumae*: MAZUR, 1990: 74; 大原, 1993: 5 [再記載].

分布: 九州, 南西諸島(奄美大島, 徳之島, 沖縄本島). 九州本土から記載された種であるが, 原記載

#### ○ヒラタドロムシの北海道の記録

ヒラタドロムシ *Mataeopsephus japonicus* (MATSUMURA) は, 平嶋(1989)によると本州, 四国, 九州に分布しており, 北海道は分布域に含まれていない. 筆者は本種を豊頃町大津で採集したので報告しておきたい.

当日は, 十勝川河口右岸の砂浜で流木下の甲虫を採集していて流木の下面に付着していた本種を発見した.

1頭, 北海道中川郡豊頃町大津, 15. VIII. 1993.

#### 参考文献

- 平嶋義宏監修, 1989. 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター.  
上野俊一ほか, 1985. 原色日本甲虫図鑑(II). 保育社.

以来本土からの記録はない.

概説IIの訂正・追加(甲虫ニュース第114号)p2. 右段24行目: 日本産コブエンmamushi属について詳しい解説が出された(西川, 1996); p4. 左段20: 分布に「ロシア(沿海州)」を追加.

#### 参考文献 (Iで挙げたものは\*を付け略した)

- \*林 長閑(HAYASHI, N.) (1985).  
平野幸彦(HIRANO, Y.) (1995). チュウジョウチビエンmamushi北海道に産す. 甲虫ニュース, (109): 4.  
\*久松定成(HISAMATSU, S.) (1985). [図説H].  
楠井喜久(KUSUI, Y.) (1984). 海外からのエンmamushi移入例. 甲虫ニュース, (63): 7.  
MAZUR, S. (1990). Notes on Oriental and Australian Histeridae (Coleoptera). *Pol. pismo ent.*, 59: 743-759.  
\*中根猛彦(NAKANE, T.) (1963). [図説N].  
西川正明(M. NISHIKAWA) (1996). 日本と台湾に産するコブエンmamushi属について. 神奈川虫報, (113): 7-11.  
ÔHARA, M. (大原昌宏) (1986). On the genus *Platysoma* from Japan (Coleoptera, Histeridae). *Pap. Ent. pres. Nakane, Tokyo*, 91-106.  
大原昌宏(1990). エンmamushiの生息環境と形態の多様性. *インセクトリウム*, 27: 4-12.  
ÔHARA, M. (1991a). Redescriptions of the Japanese species of the genus *Hololepta* (Coleoptera, Histeridae), part 1. *Elytra, Tokyo*, 19(1): 101-110.  
ÔHARA, M. (1991b). Redescriptions of the Japanese species of the genus *Hololepta* (Coleoptera, Histeridae), part 2. *Elytra, Tokyo*, 19(2): 235-242.  
大原昌宏(1993). サツマナガエンmamushiについて. *Satsuma*, 42(108): 1-8.  
\*ÔHARA, M. (1994).  
ÔHARA, M., & T. NAKANE (大原昌宏・中根猛彦) (1989). Redescriptions of two Japanese histerids belonging to the tribe Exosternini (Coleoptera, Histeridae). *Jpn. J. Ent.*, 57(2): 283-294.

(小樽市博物館)



(北海道河西郡, 伊藤勝彦)



## 日本産ヒゲトハナムグリ属の属名について

〔日本産コガネムシ類に関する考察 4〕

藤 岡 昌 介

日本産ヒゲトハナムグリ属の属名について以前から、*Anthypna* 属あるいは *Amphicoma* 属が使われ、はっきりした結論が出されていない現状である。そこで、著者の調査研究結果を記述してみたい。

*Amphicoma* 属は LATREILLE, 1807: 118 (fig. 1) によって創設された属であり、p. 118-119 で、I-group に *melis* の記述と他に 5 種の種名があり、p. 119 には、II-group *abdominalis* の記述を書きおり、タイプ種については何も書かれていない。LATREILLE, 1810. において、p. 197 には属の記述が書かれ、p. 421 において、自分の記載した属に \*印をつけ、それらには 1 種だけ種名があげられている。*Amphicoma* 属は、p. 428 に掲載され、*abdominalis*, FAB. (fig. 2) が、その属の例としてあげられている。以上のことから、*Amphicoma* 属のタイプ種は *abdominalis* を使用することがよいと思われる。CHAPIN, 1938: 79 には、genotype とし

て、*Melolontha abdominalis* FABRICIUS, 1781. を、LATREILLE, 1810. によって指定されたと記されている。

ところで、*Anthypna* 属は ESCHSCHLITZ, 1818: 472 において創設されて、*ursus*, *bombyliiformis*, *arctos*, *lynx*, *crinita*, *cyanipennis*, *hirta*, *vulpes* の 8 種が記録されているが、*ursus*, *arctos*, *lynx* は現在別亜科の種として扱われ、また、*vulpes* は現在、*Pygopleurus* 属に移されている。ESCHSCHLITZ, 1818. には、タイプ種の指定は記されていないが、CHAPIN は、1938 年 p. 80 において、*Melolontha cyanipennis* FABRICIUS, 1801. をタイプ種として指定している。*A. bombyliiformis* や他の種は、ヨーロッパなどに広域に分布しているグループであり、日本に分布している *A. pectinata* (ヒゲトハナムグリ) や *A. splendens* (オオヒゲトハナムグリ) とは、別の属のものである。

118 *Insecta. Pterodictica.*

guibus, tibiis tarsisque anticis, abdomine, rufis; tibiis anticis dentibus tribus medio-cubitus; tibiis posticis rectis.

*Glyphyre maure.* LATR. Hist. nat. des Crust. et des Insect., tom. 10, p. 206.

*Scarabæus maurus.* LINN. System. nat., ed. 13, tom. 1, pars 2, p. 548.

*Melolontha cardui.* FAB. System. eleut., tom. 2, p. 172.

Hanneton maure. OLIV. Entom., tome 1, n°. 5, pl. 8, fig. 90, a. b.

Habitat in Barbariæ carduo pycnocephalo.

SPEC. 2. *GLYPHYRUS SERRATULÆ.* *Glyphyre de la Serrature.*

G. Viridis, subtus et paululum superne luteo-tomentosus; clypeo transversa, integro; angulis anticis in dentem porrectis; pedibus cæruleo-nigris; tibiis anticis dentibus sex, tribus apicis validissimis; pedibus posticis femoribus maximis, cæruleo-cupreis; tibiis validis, arcuatis, dento valido apicali; abdomine rufescente.

Tab. IX, fig. 6.

*Glyphyre de la Serrature.* LATR. Hist. nat. des Crust. et des Insect., tom. 10, p. 206.

CCI. GENUS. *AMPHICOMA.* *Amphicome.*

*Scarabæus*, DE GEER, PALL. — *Melolontha*, FAB., OLIVIER.

*Antennæ* plerisque capitulo subgloboso, subrolido. *Mandibulæ* latere externo nec angulato nec ante apicem dentato. *Palpi* articulo ultimo cylindrico; labiales vix minores. *Maxillæ* processu elongato, sublineari.

*Corpus* sæpius hirsutum. *Thorax* suborbiculatus.

I. *Antennæ* capitulo subgloboso, subsolido.

SPEC. 1. *AMPHICOMA MELIS.* *Amphicome putaix.*

A. Cæruleo-nigra, fulvo-hirta; clypeo integro, carinato, la-

Ord. I. Fam. XVII., *Scarabæides.* 119

teribus reflexis, acutis; tibiis anticis externe tridentatis; abdomine ferrugineo.

*Melolontha melis.* FAB. System. eleut., tom. 2, p. 185.

Habitat in Barbaria.

OBSERVATIONES. Ejusdem generis *Melolonthæ*: *Cyanipennis*, *hirta*, *Vulpes*, *Bombylius*, *Vittata*.

II. *Antennæ* capitulo ovato, lamellato.

SPEC. 2. *AMPHICOMA ABDOMINALIS.* *Amphicome abdominale.*

A. Nigro-cærules; antennarum capitulo, abdomine, tarsorum anticorum articulis quatuor primis, unguibus, rufis; tibiis anticis dentibus duobus externis; tibiis mediis unicalcaratis, angulo externo et apicali in ramum arcuatum tarsi originem ambiente producto; tarsorum anticorum articulis quatuor primis brevissimis, latis, dentiformibus.

*Melolontha abdominalis.* FAB. System. eleut. tom. 2, p. 175.

Habitat in Italia. Dom. Ferrero.

II. *Palpi* gracillimi, elongati, articulo ultimo longo, cylindrico; tarsi quatuor antiqui unguibus bifidis, magnitudine diversis, interno minore; postici ungue solitario, valido, acuto, integro. (*Corpus* breviter ovatum. *Coleoptra* quadrata, apice rotundata.)

CCII. GENUS. *ANISONYX.* *Anisonyx.*

*Scarabæus*, LINN. — *Melolontha*, FAB., OLIVIER.

*Antennæ* capitulo lamellato, ovato. *Mandibulæ* latere interno membranaceo, dentibus nullis (1). *Palpi* labiales menti ad apicem inserti. *Maxillæ* valde elongatæ, filiformes, processu externo membranaceo, lineari-lan-

(1) Mandibulæ fore ut in *Cetoniis*, interne tamen minus membranaceæ. *Melolontharum* habitus.

fig. 1. LATREILLE, 1807.

以上のことから、日本に分布している属については、*Amphicoma* 属を使用することが妥当と思われる。

著者の考えるには、KRYNICKY, 1832: 128, GORY, 1844: 104, BURMEISTER, 1844: 15, 27 が間違っており、属を使用したものが現在に至って混乱の原因となっていると思われる。著者の調べた範囲では、正しく属を扱っているのは、MacLEAY, 1819: 151, CHAPIN, 1938: 79, POULIAN, 1945: 187, 澤田, 1950: 1, および三宅, 1982: 172, などと非常に少ない。

なお、食葉性コガネムシ類研究家である小林裕和氏が、1982年に書かれた、「ヒゲトハナムグリの属名について」の中で、p. 22において、『ところが、1807年 LATREILLE が *Amphicoma* 属を創設した時、同じ論文の *Amphicoma* 属の1頁後に LATREILLE は *Anthypna* 属を同じく新属として記載している。』(fig. 3)と、記述している。このことから、著者は困惑してしまい、LATREILLE 氏の文献を調べたが、著者の調べた限りでは、この記述を見いだせなかった。せめて、参考文献の記述でもあれば、大変助かったのであるが残念である。本記述について訂正の必要がある場合は、本ニュースに投稿を願いたい。

-( 438 )

* <i>Trilobus</i> <i>Prilobus</i> <i>Levis</i> Mig.	FAMILIE XVII. COPROPHAGAE.
<i>Villette</i> <i>Anobium</i> <i>peritum</i> , Fab.	<i>Atenechus</i> <i>Atenechus</i> <i>niger</i> , Fab.
<i>Dorcotoma</i> <i>Dorcotoma</i> <i>dres-</i> <i>dens</i> , Fab.	* <i>Sisyphus</i> <i>Atenechus</i> <i>Schay-</i> <i>fort</i> , Fab.
FAMILIE XIX. DERMESTIDAE.	<i>Bouvier</i> <i>Copris</i> <i>lunaris</i> , Fab.
<i>Dermestes</i> <i>Dermestes</i> <i>larid-</i> <i>rus</i> , Fab.	<i>Onitis</i> <i>Onitis</i> <i>Schwarz</i> , Fab.
<i>Mesotoma</i> <i>Dermestes</i> <i>terra</i> , Fab.	* <i>Onthopagus</i> <i>Copris</i> <i>Taurus</i> , Fab.
FAMILIE XX. STERNIDAE.	<i>Aphodius</i> <i>Aphodius</i> <i>finet-</i> <i>rus</i> , Fab.
<i>Anthrenus</i> <i>Anthrenus</i> <i>verber-</i> <i>a</i> , Fab.	FAMILIE XXVII. GASTRUPIDAE.
* <i>Tiroscus</i> <i>Dermestes</i> <i>ad-</i> <i>strator</i> , Fab.	<i>Lathrus</i> <i>Lathrus</i> <i>cephalotes</i> , Fab.
<i>Byrus</i> <i>Byrus</i> <i>pilula</i> , Fab.	* <i>Gastropus</i> <i>Scaphocerus</i> <i>ster-</i> <i>corarius</i> , Fab.
<i>Chelonaria</i> <i>Chelonarium</i> <i>Bemouit</i> , Lat.	FAMILIE XXVIII. SCARABAEIDAE.
<i>Escarbot</i> <i>Hister</i> <i>unicolor</i> , Fab.	* <i>Egalia</i> <i>Aphodius</i> <i>gibbosus</i> , Mig.
* <i>Nosodendrus</i> <i>Sphenarium</i> <i>fasciatum</i> , Fab.	<i>Trox</i> <i>Trox</i> <i>reclinatus</i> , Fab.
* <i>Elmus</i> <i>Dytiscus</i> <i>Folskema</i> , Fabr.	<i>Sinodendron</i> <i>Sinodendron</i> <i>cy-</i> <i>lindricum</i> , Fab.
<i>Dryops</i> <i>Parus</i> <i>prolifera</i> <i>cor-</i> <i>rus</i> , Fab.	<i>Oryctes</i> <i>Gastropus</i> <i>nasio</i> <i>cor-</i> <i>rus</i> , Fab.
<i>Heterocerus</i> <i>Heterocerus</i> <i>nar-</i> <i>gatus</i> , Fab.	* <i>Phileurus</i> <i>Gastropus</i> <i>di-</i> <i>gatus</i> , Fab.
<i>Geotrupes</i> <i>Platella</i> <i>minuta</i> , Fabr.	<i>Scarabaeus</i> <i>Gastropus</i> <i>Her-</i> <i>cules</i> , Fab.
FAMILIE XXV. HYDROPHILIDAE.	<i>Hexodon</i> <i>Hexodon</i> <i>reticu-</i> <i>latum</i> , Fab.
<i>Elinorus</i> <i>Elinorus</i> <i>apnati-</i> <i>cus</i> , Fab.	* <i>Rustica</i> <i>Cetonia</i> <i>corymb</i> , Fab.
<i>Hydramis</i> <i>Hydramis</i> <i>riparia</i> , Mig.	<i>Hannetia</i> <i>Melolontha</i> <i>vaiga-</i> <i>ria</i> , Fab.
<i>Sperocis</i> <i>Sperocis</i> <i>emergens</i> , Fab.	<i>Hannetia</i> <i>Melolontha</i> <i>farinosa</i> , Fab.
<i>Hydropilus</i> <i>Hydropilus</i> <i>pi-</i> <i>cus</i> , Fab.	* <i>Glanthys</i> <i>Melolontha</i> <i>Cy-</i> <i>lind</i> , Fab.
FAMILIE XXVII. SPHENIDAE.	* <i>Amphicoma</i> <i>Melolontha</i> <i>ap-</i> <i>dominalis</i> , Fab.
<i>Sphenidia</i> <i>Sphenidium</i> <i>scar-</i> <i>abaeoides</i> , Fab.	* <i>Amphicoma</i> <i>Melolontha</i> <i>cr-</i> <i>rus</i> , Fab.
	<i>Trichia</i> <i>Trichia</i> <i>fasciatus</i> , Fabr.

fig. 2. LATREILLE, 1810.

い。

また、FAIRMAIRE, 1891: VII. において、*Toxocerus* 属を新設している。現在は、*Amphicoma* 属のシノニムと扱われているが、著者の調べた範囲では、*Amphicoma* 属の亜属として使用した方が良いと思われる。日本産のオオヒゲトハナムグリ (*A. splendens*) や、台湾・中国・インドシナなどの同じグループは、これに入れた方が良いのかもしれない。

日本産のヒゲトハナムグリ属は以下のとおり使用することが妥当と思われる。

genus *Amphicoma* LATREILLE, 1807

*Genera Crust. et Insect.*, 2: 118.

(type species) *Melolontha abdominalis* FABRICIUS, 1781

*Amphicoma pectinata* (LEWIS, 1895)

ヒゲトハナムグリ

*Ann. Mag. nat. Hist.*, (6), 16: 388.

(type locality) Tokyo.

産地: 本州・四国.

*Amphicoma splendens* (YAWATA, 1942)

オオヒゲトハナムグリ

*Trans. kansai ent. Soc.*, 12: 35.

(type locality) Loo-choo (Yonakuni Island).

産地: 石垣島・西表島・与那国島?.

ところが、1807年 LATREILLE が *Amphicoma* 属を創設した時、同じ論文の *Amphicoma* 属の1頁後に LATREILLE は *Anthypna* 属を同じく新属として記載している。このような事実があることから、CHAPIN のいうような *Anthypna* 属の位置づけは、不適当なものであるといわざるを得ない。さらに ESCHSCHOLTZ が *Anthypna* 属として扱ったものは、LATREILLE が *Amphicoma* 属としたものと同一のものである。このことは、BURMEISTER (1844), ARROW (1912) もすでに指摘している。

fig. 3. 小林, 1982.

## 参考文献

- ARROW, G. J., 1912. *Coleopterorum Catalogus*. W. JUNK, S. SCHEULCLING, Pars 43. Scarabaeidae: Pachypodinae, Aclopiniae, Glaphyrinae, Ochodaeinae, Orphninae, Idiostominae, Hybosorinae, Dynamopinae, Acanthocerinae and Troginae. 1912: 66 pp.
- 1938. The Coleopterous genus *Anthypna* (Glaphyridae). *Ann. Mag. nat. Hist.*, (11), 2: 285-290.
- BARAUD, J., 1989. Révision du genre *Pygopleurus* Morschulsky (Coleoptera: Scarabaeoidea: Glaphyridae). *Ann. Soc. ent. Fr.*, (N.S.), 25: 331-375.
- BEDEL, L., 1889. *Coleopteres Nord de l' Afrique*. *Ann. Soc. ent. France*, 1889: 85-100.
- BURMEISTER, D., 1844. *Handbuch der Entomologie, Coleoptera Lamellicornia Anthobia et Phyllophaga syatellochela*, 4(1). Berlin, 1844: 587 pp.
- CHAPIN, E. A., 1938. The nomenclature and taxonomy of



- the genera of the scarabaeid subfamily Glaphyrinae. *Proc. Biol. Soc. Washington*, **51**: 79-86.
- ENDRÖDI, S., 1952. Monographie der gattung *Anthypna* LATR. *Folia ent. Hung.*, **5**: 1-40.
- ESCHSCHOLTZ, J. F., 1818. Decades tres Eleutheratorum Novorum descripsit. *Mém. Acad. Imp. Sci. St. -Petersburg*, **6**: 451-484.
- FAIRMAIRE, M. L., 1891. Coléoptères de l'intérieur de la Chine. *Ann. Soc. ent. Belg.*, C. R., **35**: VI-XV.
- GORY, M. H., 1844. Iconographie du Règne Animal, Insectes. [in GUERIN], 1844: 575 pp. (90-110).
- 小林裕和, 1982. 日本産ヒゲトハナムグリ類の属名について. 月刊むし, (141): 22-23.
- KIRYNYCKY, 1832. *Bull. Soc. imp. nat. Moscou*, **5**: (124-131).
- LACORDAIRE, M. Th., 1856. Genera de coléoptères ou exposé méthodique et critique de tous les genres proposés Jusqu'ici dans cet ordre d'Insectes, XXX. *Hist. Nat. Ins. Col.*, **3**: 594 pp. pls. 25-39.
- LATREILLE, P. A., 1807. Genera Crustaceorum et Insectorum secundum Ordinem naturalem in Familias disposita, Iconibus Esemplisque plurimis explicata. (1806-09), *Parisis et Argentorati*, **3**: 280 pp.
- 1810. Considérations générales sur l'ordre naturel des Animaux composant les classes des crustacés, des Arachnides, et des Insectes. *Paris*, **1810**: 444 pp.
- LEWIS, G., 1895. On the Lamellicornia Coleoptera of Japan. *Ann. Mag. nat. Hist.*, (6), **16**: 374-408.
- MACHATSCHKE, J. W., 1959. Untersuchungen Über die verwandtschaftlichen Beziehungen der gattung der bisherigen Glaphyrinae. *Beit. Ent.*, **9**: 528-545.
- MacLEAY, W. J. M., 1819. Essays on the Annulose Aui-mals. *Horae ent.*, London, **1**: 524 pp.
- MEDVEDEV, S. I., 1960. Fauna SSSR, Scarabaeidae (Euchirinae, Dynastinae, Glaphyrinae, Trichinae), **10**(4): 397 pp.
- MILNE-EDWARDS, M., M. Z. BLANCHARD, et M. H. LUCAS, 1850. Catalogue de la collection Entomologique classe des Insectes, ordre des coleopteres Tome 1. *Museum Hist. Nat. Paris*, **1850**: 240 pp.
- 三宅義一, 1982. 琉球と台湾のヒゲトハナムグリ属について. 北九州の昆虫, **29**: 171-174, pl. 19.
- PAULIAN, R., 1945. Fauna de France, III (Indochine), Scarabeides. *Paris*, **1945**: 225 pp.
- REITTER, Edm., 1890. Analytische Revision der Cpleoptereren-Gattung *Amphicoma*. *Deutsche ent. Zeits.*, **1890**: 53-64.
- [1904]. Bestimmungs-Tabelle der Melolonthidae aus der europäischen-Fauna und den angrenzenden Ländern, enthaltend die gruppen der Rutelini, Hoplini und Glaphyrini (Schluss). *Verh. natu. Ver. Brünn*, 1903, **4**: 28-258.
- 澤田玄正, 1950. 日本・琉球・台湾産のコガネムシ類に就いての若干の知見. 蟲報, **2**: 1-12, pl. 2.
- TEŠAR, Z., 1938. Beitrag zur Kenntnis der pall. Lamellicornien. *Ent. Nachr.*, **12**: 165-172.
- YAWATA, H., 1942. Notes on the Glaphyrinae of Japan with descriptions of a new genus and two new species. *Trans. Kansai ent. Soc.*, **12**: 33-37.

(東京都杉並区)

## ○対馬のドロムシ類

長崎県対馬からは、ドロムシ科1種、ヒメドロムシ科2種がすでに記録されている。筆者は、1994年8月に対馬を訪れ、ドロムシ類の採集を試みたところ、記録のある3種のほかに同島初記録であるホソヒメツヤドロムシを採集した。加えて佐藤正孝教授の御好意で、沖縄県在住の木村正明氏が採集されたドロムシ類を調査したところ、同島初記録であるイブシアシナガドロムシなどが含まれていた。以下に、すでに記録のある3種も含めて採集記録を報告する。なお、採集者の名前のないものはすべて筆者の採集である。

## Dryopidae ドロムシ科

1. *Elmomorphus brevicornis* SHARP ムナビロツヤドロムシ  
3頭, 上県町仁田川, 6. VIII. 1994; 2頭, 峰町大星山, 7. VIII. 1994.  
Elmidae ヒメドロムシ科
2. *Stenelmis nipponica* NOMURA イブシアシナガドロムシ (対馬初記録)  
23頭, 上県町飼所川, 20. X. 1994, 木村正明採集.
3. *Ordobrevia gotoi* NOMURA ゴトウミゾドロムシ  
6頭, 厳原町内山, 5. VIII. 1994; 7頭, 仁田川,

6. VIII. 1994; 3頭, 大星山, 7. VIII. 1994; 1頭, 上対馬町舟志川, 22. X. 1994, 木村正明採集.
4. *Zaitzeviaria gotoi* (NOMURA) ホソヒメツヤドロムシ (対馬初記録)  
2頭, 厳原町竜良山, 4. VIII. 1994; 4頭, 内山, 5. VIII. 1994; 2頭, 仁田川, 6. VIII. 1994; 2頭, 大星山, 7. VIII. 1994; 27頭, 舟志川, 21-22. X. 1994, 木村正明採集; 24頭, 上県町大保家, 22. X. 1994, 木村正明採集.
5. *Zaitzevia tsushimana* NOMURA ツシマツヤドロムシ  
29頭, 内山, 5. VIII. 1994; 32頭, 仁田川, 6. VIII. 1994; 10頭, 大星山, 7. VIII. 1994.  
対馬におけるドロムシ科, ヒメドロムシ科は現在のところ以上の5種類しか記録がない。対馬には山間の、護岸工事されていない溪流が比較的多いので、5種類しか記録がないのは意外な気がする。  
末筆ながら、標本を調査させてくださり、かつ報告を勧めてくださった名古屋女子大学の佐藤正孝教授にお礼申し上げる。

(名城大学, 吉富博之)

○ユノーメダカハネカクシの新潟県湯沢町での記録  
 ユノーメダカハネカクシ *Stenus juno* PAYKULL  
 は、中央ヨーロッパから知られていた種で、NAOMI  
 (1991)が北海道(石狩、宗谷、釧路の各支庁)と福  
 島県(裏磐梯)から記録したことによって日本の  
 ファウナに加えられた。その後本州からの追加記録  
 は発表されていないようであるが、筆者は本種を新  
 潟県下で採集したので報告しておきたい。



1♂(写真)1♀, 新潟県湯沢町八木沢(600 m), 20.  
 V. 1995, 芳賀 馨採集・所蔵, 直海俊一郎同定。

採集地点は清津川右岸の谷底にあたり、良好なブ  
 ナの原生林が残されている。♂個体は右岸斜面から  
 入る枝沢の水が滞留して小規模な湿地を形成した場  
 所で、芦の枯茎を踏み倒して採集した。♀個体は川  
 岸に形成された砂州の陸側に生じた水溜りの水際の  
 泥上から採集した。両地点は互いに2 kmほど離れ  
 ているが、いずれにおいてもオオハンミョウモドキ  
*Elaphrus japonicus* S. UENOの生息が観察された。

末筆ながら、本種を同定して下さり発表を勧めら  
 れた直海俊一郎博士に心からお礼申し上げる。

#### 参考文献

NAOMI, S.-I., 1991. Studies on the subfamily Steninae  
 (Coleoptera: Staphylinidae) from Japan, XIX. The  
 Steninae deposited in the Entomological Institute,  
 Hokkaido University. *Trans. Shikoku ent. Soc.*, **19**:  
 163-166.

(埼玉県浦和市, 芳賀 馨)

#### ○ヒメハナカミキリ属の天敵

ヒメハナカミキリ属はジョウカイボン各種に擬態  
 しているとされているが(黒沢, 1986; 今坂,  
 1987), その天敵についての報告は少ない。今回筆  
 者は、以下のような観察例を報告する。

1. アオジョウカイ *Themus cyanipennis* MOTS-  
 CHULSKY

捕食例: オオヒメハナカミキリ *Pidonia*  
*grallatrix* (BATES) 長野県松本市入山, 27. VII.  
 1992, PM 3:00, シシウド花上。

捕食例: アサマヒメハナカミキリ *P. takechii*  
 KUBOKI 群馬県利根郡水上町田代沢林道, 16. VIII.  
 1993, AM 9:00, ヤマブキシヨウマ花上。

#### 2. ムツボンシオニグモ *Araniella* sp.

捕食例: アサマヒメハナカミキリ群馬県利根郡水  
 上町田代沢林道, 13. VIII. 1993, PM 6:00, ヤマブ  
 キシヨウマ花上。

末筆ながら、クモの同定をしていただいた久保田  
 克哉氏に深謝申し上げる。

#### 引用文献

今坂正一, 1987. ヒメハナカミキリ属はジョウカイボンに  
 擬態? 月刊むし, (202): 9-10.

黒澤良彦, 1986. ベーツ型擬態. 原色日本甲虫図鑑 (I):  
 126-128. (森本 桂・林 長閑編), 保育社, 大阪。

(日本大学生物資源科学部, 榊原陽一)

#### ○九州におけるカタキンイロジョウカイの追加記録

カタキンイロジョウカイ *Themus ohkawai* は  
 SATO (1976) によって三重県と愛知県の標本によっ  
 て記載された大型美しいジョウカイボン科甲虫であ  
 る。最近になって佐賀県と大分県(OKUSHIMA,  
 1994), 長野県(吉富, 1996; 雛倉, 1996) からの  
 記録が相次いで発表された。



筆者はまだ記録のない福岡県産の本種を検する機  
 会を与えられたので、追加記録として報告してく  
 く。

2♂♂, 2♀♀, 福岡県小石原村, 23. VI. 1996, 松  
 本吏樹郎採集, 倉敷市立自然史博物館保管。

採集された松本氏の話によると、薄暗い湿地に  
 なった林の林縁部にあるクリの花に集まっていたも  
 のを採集したということである。

末筆ではあるが、貴重な標本を提供してくださ  
 った九州大学の松本吏樹郎氏に厚くお礼申し上げます。

#### 引用文献

雛倉正人, 1996. カタキンイロジョウカイ長野県茅野市に  
 産す. 甲虫ニュース, (113): 6.

OKUSHIMA, Y., 1994. Records of *Themus ohkawai* M.  
 SATO (Coleoptera, Cantharidae) from Kyushu,  
 Japan. *Jpn. J. Ent.*, **62**: 729-730.

SATO, M., 1976. New Cantharoidea from Japan (Coleopt-  
 era). *Trans. Shikoku ent. Soc.*, **13**: 51-60.

吉富博之, 1996. 長野県におけるカタキンイロジョウカイ  
 の記録. 甲虫ニュース, (113): 6.

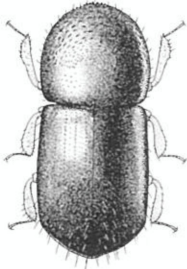
(倉敷市立自然史博物館, 奥島雄一)



## 野淵 輝博士を悼む

1996年6月22日、元農林水産省森林総合研究所昆虫管理科長でキクイムシ類の世界の最高権威であった野淵輝博士が、交通事故に遭い、他界された。65歳という仕事のまとめ盛りの年齢で、あまりにも早い博士のご逝去は、日本のみならず世界の昆虫界にとっても痛恨の極みである。

野淵博士は1931年2月9日、兵庫県堺市日置荘西町で出生された。昆虫少年として育ち、中学生の頃には、交換により世界各地の昆虫を蒐集し、その標本は今でも自宅に飾られている。西京大学（現京都府大）時代はキノコにつくオオキノコムシ、ガガンボ、ツツキノコムシ類等の研究をされた。林業試験場に入られてキクイムシ類の研究に従事されたが、これはキクイムシと形態的に似ているツツキノコムシをやっていた影響が強いと思われる。林業試験場での研究成果はすばらしく、一般的な分類のみならず、誰にも真似のできないような解剖をおこない、キクイムシ上科成虫の前胃の比較形態学研究で学位を取得されている。この研究で1971年には、日本林学会賞を授与された。



キクイムシ類以外ではヒラタクイムシ、ナガシクイムシ、松くい虫類等の研究を幅広く手がけられ、また、一般昆虫にたいする造詣も深く、そのため、日本各地の環境アセスの仕事も数多くこなされ、海外でもインドネシアの造林プロジェクトの虫害問題を担当された。

元来、無類の酒好きであったが、キクイムシの研究を永く続けるために酒断ちをして、森林総合研究所（前林業試験場）を退官されてからも日本のキクイムシの総まとめをされていた。今回の交通事故はその矢先の出来事で、本人の無念さは計り知ることができない。博士のキクイムシ類の標本および文献は、つくば市の農林水産省農業環境技術研究所に永久に保存されることになっている。故人の意志は、「必要なものは必要な人に使っていただきたい」と理解しているので、多くの研究者に利用されることを期待する。これが故人に対する冥福であると思う。

(楨原 寛)

## 和泉敦夫さんの思い出

去る8月26日会員の和泉敦夫氏、享年57才が心不全のため、急逝された。本学会の集まりにも日頃積極的にご参加下さったり、甲虫ニュースへも投稿されていただけに、本学会にとっても誠に惜しまれる死である。

和泉さんと最後にお話しをしたのは、訃報をうけとる2週間前のことであった。珍品のハマベゴミムシを差し上げたお礼の電話であった。大変喜んでくださったものの、お声に張りがなく「疲れた。疲れて採集に行くのがたいへんで」と言われていた。今にして考えると、時間的に不規則なお仕事による疲労の蓄積が、お体に影響を及ぼしていたのかもしれない。

親しくお付き合いさせていただいたのは、10年ぐらい前からである。同じゴミムシを研究するもの同志意気投合し、しばしば、採集をご一緒したり、また、ご自宅が比較的近いこともあって、我が家へくず餅とゴミムシをお土産に度々遊びにおいて下さり、楽しい時間を過ごしたものだ。

和泉さんのゴミムシ採集は、お人柄そのものがにじみ出ていた。どんな小さな石でもていねいに順番におこしていく、しかも長時間、粘り強く、あのような地道な採集が、関東平野のゴミムシの研究の基礎となり、分布資料の蓄積に大いに貢献したものと思う。もちろん、私自身の研究のために、貴重な標本を快くご恵与下さった。たとえば、大田区で発見された新種のチビカタキバゴミムシも、そのような例としてあげることができよう。1989年冬に落葉下から採集された雄の標本が、チビカタキバゴミムシの正基準標本として、国立科学博物館に保存されている。

落葉下のゴミムシ採集の際、和泉さんは、ご自分で持てる範囲の土をもちかえられ、私は、ひとりではとても持ち運べないだけの土をとり、あまりに重く、和泉さんにも運ぶを手伝ってもらったことがあった。小さなことではあるが、和泉さんのやさしさを感じ、今でも強く印象に残っている。

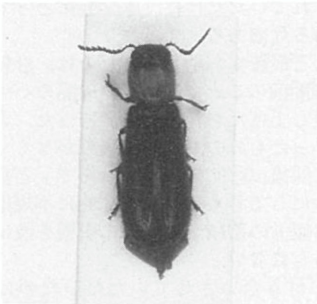
数年前、ニッコウオオズナガゴミムシを採集したいとご希望で、群馬県赤城山をご案内し、よい結果に感激され、以後、山地性のナガゴミムシを求めて、木曽御岳・日光で成果をあげられた。その一部は、報文として公表されている。

日本産の甲虫を全種採集したいと言われ熱心に活動を続けられた和泉さん、もう疲れたなどという必要のない安らかな世界で虫の研究を続けられていることだろう。ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げる。

(森田誠司)

## ○ホタルツツカッコウムシの追加記録

ホタルツツカッコウムシ *Tenerus formosanus* SCHENKLING の国内における記録は、佐藤(1995)による石垣島産の1♀が唯一と思われる。筆者も1993年に石垣島で本種を採集していたので、追加記録として報告しておきたい。



1頭、沖縄県石垣島平久保, 4. V. 1993, 筆者採集。

なお、採集時の状況はよく覚えていない。

## 参考文献

佐藤真矢, 1995. 日本未記録のカッコウムシの1種. 甲虫ニュース, (112): 1-2.

(東京都大田区, 金子義紀)

## ○沖縄本島におけるクロオビトゲムネカミキリの針葉樹からの羽化脱出記録

クロオビトゲムネカミキリ *Sciades (Estoliops) fasciatus* (MATSUSHITA) は西日本〜琉球列島にかけて分布し、4亜種に分かれる。宿主樹種として、これまでにカシ類・シイ類・タブノキといった広葉樹が知られていた(小島・中村, 1986)。

今回、本種の初めての針葉樹の食樹記録として、沖縄本島産亜種 subsp. *okinawanus* N. OHBAYASHI のリュウキュウマツ丸太からの羽化脱出例を記録しておきたい。

1♀, 沖縄本島国頭村辺土名, 13~14. V. 1996 (リュウキュウマツ丸太)(沖縄県林業試験場採集), 24. V. 1996 神奈川県藤沢市にて羽化脱出。

この丸太はマツノマダラカミキリ *Monochamus alternatus* (HOPE) を得る目的で供試された食害材であった。

本種と同属のケシカミキリ *S. (Miaenia) tonsus* (BATES) は各種広葉樹の他、針葉樹のマツ属を宿主とする場合があり(小島・中村, 1986; 岩田・他, 1993), 本観察例はこれとあわせて、本属の幅広い宿主スペクトルを示唆している。

末筆ながら、マツノマダラカミキリ食害丸太の供与を賜った沖縄県林業試験場の仲栄貞盛氏、この管理に関与された日本大学生物資源科学部森林資源科学科の山根明臣教授、小林博隆氏に御礼申し上げます。

## 引用文献

岩田隆太郎・他, 1993. 関西甲虫談話会資料, (5): 1-117.

小島圭三・中村慎吾, 1986. 日本産カミキリムシ食樹総目録. 比婆科学教育振興会, 庄原, 11+337 pp.

(日本大学生物資源科学部森林資源科学科, 岩田隆太郎)

## ◇RDB 候補種選定のお願い◇

日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック=RDB)が公表されたのは、1991年であった。その後の環境変化を含めて、早急に改訂版作成が要望されていたが、この度環境庁の依頼によって日本昆虫学会がそのまとめを行うことになり、甲虫類に関しては、本学会が協力することとなった。

ついては、各地方により事情も異なる場合もあると思われるが、改訂版に登載すべき候補種があれば至急下記宛連絡ください。各種のカテゴリーについては一応従来の5つのランクに分けて考えてください。

絶滅種、絶滅危惧種、危急種、希少種、地域個体群。

また、従来登載されている種についてもカテゴリーの変更案やその他気付いた点があれば提案ください。

なお、提案いただいた種が全部採択される訳ではないので、その点も了承ください。候補種を日本昆虫学会自然保護委員会でもまとめ、最終的には環境庁の野生生物保護対策検討会で決定されることになっている。参考までに本学会からは後者の委員に上野俊一博士、森本 桂博士と佐藤がなっている。

## RDB 候補種提案連絡先

〒467 名古屋市瑞穂区汐路町3-40  
名古屋女子大学生物学研究室  
佐藤正孝宛

## 日本鞘翅学会

会費(一カ年)6,000円, 次号は1996年12月下旬

発行予定

発行人 佐藤正孝

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町3-23-1

国立科学博物館昆虫第1研究室

電話(3364)2311, 振替 00180-3-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

## 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他、採集、製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

振替 00130-4-21129

電話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社